



郡上北高校 探究通信

no. 3

12月8日(金)の第2回授業研究会が終了しました。郡上市内小・中学校、県内高等学校・特別支援学校などから計22名が来校し授業を参観されました。今年度も「コンパクト授業研究会+1日授業研究会」という、郡上北高校スタイルの提案型授業研究会を実施し、わかりやすい授業の実現に向けた取り組みについて発信しました。

岐阜大学教育学研究科教授の棚野勝文先生の講義では「学習支援と主体性を引き出す授業を考える」を題目に講演いただきました。学習支援や授業の在り方について、個別最適な学びとは何か、そのための手法として何があるのか考える機会となりました。また、他校での実践例では、一斉学習・グループ学習・個別学習を1クラスで同時に行ったり、考査を廃止したりといった例が挙げられました。特に、前者については、グループ学習をしながら、そのグループ内で個別学習をしている生徒がいる本校のグループ学習と共通する部分があると考えます。今後の教育は、今以上に柔軟な考え方が私たちにも求められると学びました。

ここからは、授業研究会のフィードバックを紹介します。今後の授業改善の参考にしてください。

校内アンケート

自らの授業で取り入れたいこと、参考になったこと、他の先生にも知ってもらいたいこと等を記入してください。

1限:雑学を内容にうまく取り入れると生徒の興味が湧き、つぶやきが多くなることを学びました。

くじ引きでの指名も緊張感があるため、場面によって採用したいです。

3限:グループ学習の見守る姿や生徒の問いかけ方(対角に立って話す)、目線の合わせ方などの心遣いがとても感じました。

4限:自分が知っている計算方法ではない独特の計算方法を用いるなど、生徒がわかりやすい形で理解させようとしている点が参考になりました。

5限:生徒への声のかけ方についてすごく参考になりました。グループの発表に対して、教員や他の生徒全員が納得・理解できるよう、かみ砕いて話してもらうようにしたり、教員が補足して説明している部分がありました。また、生徒の発表に対して、一つ一つ瞬時に考え感想述べたりなど生徒に寄り添った授業を行っていて参考になりました。

ICTの活用については、タブレットに直接打ち込んだものを発表の際に、全員が共有しやすいようスクリーンに映すなどの工夫がされていて、自分も保健の授業などで参考にしたいと思いました。

3限:定理の使い方(一斉授業)→演習(個別に応じた学習)→定理の証明(グループ学習)

参観させていただいた全授業で、グループ学習での活動を積極的に行っており、問いによって入れたり入れなかったり、もっと考えて授業を組み立てていきたいと思いました。また、進み具合をどこのレベルに合わせるかというのも参考になりました。

歴史総合では、正解のない問いを考えたのちに教科書を見て学ぶという流れが自分では考えたことがなかったので、生徒が考えたくなる設問が参考になりました。

3・6限 生徒同士で説明する機会や、少人数で発表し評価してもらい経験の積み重ねが自己肯定感の醸成に貢献しており、それが本校の生徒の安定につながっているのだと感じた。やはり最大の生徒指導は授業なのだと感じた。

3・6限

- ・机間指導の際に生徒に目線を合わせる
- ・机間指導のときに、表情だけで生徒の思考を促す(いいこと言っているときにうなずいたり、笑ったり、...)
- ・活動をするときには起立し、説明を聞かせるときは座らせてメリハリをつける

2限

- ・スモールクエスチョンをたくさん設けることで、すべての生徒を授業に参加させる。
- ・書く、話す、聞くのメリハリとその声かけ。
- ・前回までの学習との関連

4限

- ・難しい問題を難しいと感じさせない方法の徹底。
- ・グループ学習にすることで、置いて行かれる生徒をつくらない。
- ・出題問題の創作性。
- ・週末課題による知識の定着。

ペア活動は日ごろ取り入れているが、グループ活動はあまりしていないので今後してみようと感じた。

4限:グループ学習をする中で、生徒が自分の意見を言い合う姿が良かったです。

1限:授業のテンポ、発問の仕方が良かった。

4限:演習をグループワークにて行うこと。生徒間で助け合いながら学べる形態と考える。

5限:グループ学習の発表

4限:グループになって問題を解かせることで、様々なレベルの生徒が混在し、自然と教え合いをする姿が見られ、対話的で深い学びの体現だと感じた。

4限:授業を持っていないので活かすことはできませんが、理科も数学が基本だということがよくわかりました。

4限:教科の内容に入る前に、日常生活に関わりがある題材で練習するというのが参考になった。

3限:生徒がとにかく楽しそうに主体的に取り組んでいる印象でした。安心して学習に取り組める環境だからこそ生徒の主体性が引き出されているのだと思います。授業内外を通しての生徒との信頼関係もあると思いますが、授業中生徒の目線に合わせて関わったり簡単な言葉で説明する姿も大きく影響していると思い、自身の授業でも教員の姿を見直したいと思いました。また、生徒への声掛けが適切で、本多先生の声掛けによってグループ交流がさらに活発になったり学び合う姿が見られ、自らの授業でもぜひ取り入れたいです。

6限:生徒の活動と講義のメリハリがあって、主体的に学ぶ姿勢を育てられる授業展開だと思いました。

3限:グループ学習(1人グループも含む)

3限:プリントが授業の流れに沿って、3段階に分かれていて、とても見やすいと思いました。また、練習問題が、基礎・発展・チャレンジと複数のレベルで用意しており、能力差のある生徒が同じ授業を受けていても、時間を有効活用できる良い方法だと学びました。

授業改善の視点

説明して強引にわからせるのではなく、生徒が自力でたどり着くように指導する方が、長い目で見たときの「授業がわかる」につながると思う。科目の専門知識の前に、問われていることが正確に理解できる読解力を身につけるような指導を全科目で取り組んだらすべての科目に恩恵があるのではなかと感じています。

進行速度は生徒に合わせてながらも、様子を見てヒントをだす。

興味・関心や好奇心をくすぐる話材を提供すること。できれば、身近で意外性のあるものを提供して、授業の導入として使えないかと考えている。

概念をできるだけ単純化する

やはり、教師が一方的に話す(説明)するのではなく、生徒同士で教え合う姿が一番良いとは考えます。

ペア交流、グループ交流を増やす。

自身の授業での実践紹介

教科書指導ではなく、ゴールを明確に設定して、それに向けて授業を構成している。

日本史 A では生徒が授業形式で他の生徒に教える形の授業を実践中である。具体的には満州事変から太平洋戦争の敗戦までを7つのグループで分担させ、グループごとに自分たちが受け持った範囲について研究して発表させようと思っている。

少し長めの文で問いを与え、少し長めの文で答える練習を毎授業行っている。また、複数の原因をひとつの文で書く、とか、教科書の文の語尾を変えないと答えたことにならない問い、など答え方の難易度を少しずつあげている。

生徒全体に到達目標を伝え、一斉学習した後、グループあるいは個別で追求させる。

授業プリント、授業プレゼンの作成。指導書添付のデータでも使えるが、生徒の実態にあったものにつくりあげる必要がある。

宿題よりも、いかに授業に集中させるかを今は重視しています。

問いをして、答えさせて、さらに深い問いを返すことで考えさせる。(答だけでなく、なぜそうなるかまで問う)

校外アンケート ※先生方からご意見をいただきました。

自らの授業で取り入れたいこと、参考になったこと、他の先生にも知ってもらいたいこと等を記入してください。

MetaMoji を利用すること

書いたものがそのまま残せることや、広範囲を見せるときなど生徒にとっても見やすいことも多いと感じたため

復習問題をペア学習で説明することで完璧に理解し、本時の内容につなげることができていた。また、法べきの定理がどのように導かれているのかをグループ学習で考えて教え合っている姿が良かった。

・ノートやプリントに代わる MetaMoji の使用

・生徒に自由に考えさせ、教科書で答え合わせをする形の授業展開

グループでの対話的な学習形態や ICT を活用した実践であることから、本校でも意図的に実践している社会科での学び方、身につけた見方考え方が、高等学校に進学した後も活用できると感じました。貴校に進学を希望している生徒が、本時のような学びの場において活躍し、力をつけていくために中学校での授業の質を高めていく必要性を感じました。

生徒のノートを見ると、学習の足跡が丁寧にまとめてあった。また、教師の問いに対して、過去のノートを見直す姿が多く見られ、学ぼうとする気持ちが伝わってきた。自分の授業でも、タブレットに頼りすぎず、ノートに書いたりノートを見直したりする習慣を身に付けられるようにしたいと思った。

特定の箇所を講義するのではなく、教科書、資料集の複数箇所を生徒自身が探して学ぼうとする方法、こちらから資料ページを提示するのではないのが、ぜひ試みたいと思います。

自分ならどんな国をつくるかという為政者からの視点で考えさせる工夫、自分たちの考えと歴史事実の共通点を見つけさせるために教科書を使うという手法

自分たちの考案した明治維新をベースに実際の明治維新を比較することで生徒が主体的に教科書等で調べていたのが印象的でした。自分事として明治維新を捉え、理解することができていたのではないかと思います。

メタ文字をうまく利用してグループでの話し合い、発表が行われていて参考になった。

ICT (MetaMoji) を活用した振り返り

授業改善の視点

発表については、起立させて発表させた方がよいと思います。発表者が明確になり、また他のグループへ発表内容を発信する意味でも必要かと思えます。

提案ではありませんが、机間巡視の際にあるグループで出た質問や良い観点等を、その場で全体で共有するようなことをされなかった点はあるのかなと思いました。

生徒に問いながら、生徒自身も周りの子と確認するなど、教員と生徒の関係がちゃんと築かれていると感じた。生徒たちも意欲的に取り組んでおり、いい授業だったと感じた。

一問一答にならないように、生徒を信じて生徒に任せ、ペアやグループで課題を解決する時間を増やしたい。

他校での実践状況の紹介

端末や活用している学習支援ソフトが異なりますが、資料のデジタル配布やシンキングツールを用いた思考の可視化を行っています。

申し訳ありません。紹介できるほどのものを自身は実践できておりません。

勤務校が単位制高校であるため、授業選択の際にはタブレットを活用している点は他校では見られない点かと思えます。

グループ学習の目的に合わせて、人数や形態などを変えて実践を積んでいる。

MetaMoji の活用してグループ活動やペアワークを実施しています。

毎回の授業で小課題を出し、クリアした生徒にポイントを付与しています。

<紙面での回答は校内にて共有させていただきます。>

<総括>

今年度は、「わかりやすい授業」をテーマに9月及び今回の授業研究会を設定しました。9月には、ベテランの先生に公開授業をしていただき交流会を通して学びました。今回、9月で学んだことを含めてブラッシュアップした普段の授業の様子を公開授業としました。

探究通信1号(7月発行)に、以下のことをまとめとして記載させていただきました。

(高鷲小学校の)研究授業でのキーワードは、「探究」と「協同」

教師の仕事は、①学びのデザイン ②学びのコーディネート ③学びのリフレクション

とのことでした。高校で「生徒が主体となって学ぶ環境づくり」を考えたとき、課題は多いですが、本校でも学び合いを取り入れている授業の場面は多くあります。小中高合同教科部会や本校での授業研究会を通して教師も学び合いができたらと思います。

今回の授業研究会では、その学び合いを取り入れている授業の場面の一部を参観できたと思います。教科内容は異なっても、ペア学習やグループ学習をしながら、生徒自ら成長していく過程がありました。私自身、例年生徒に授業アンケートをとると、ペア交流やグループ交流をもっとしたいという意見が多くあります。その背景には、授業中の不安などの思いがあると感じていました。今年度は、全授業で一斉学習とグループ学習のハイブリットで授業実践しています。その効果は、今年度の授業アンケートで調査・改善していきたいと考えています。

また、昨年度、「ICTの活用が目的でなくツールとしての活用が定着しつつあり、次のステップへ挑戦してみようと試みる教員が多いのではないか」とお伝えしました。今年度の年代問わず活用している様子から、ツールとして考えている教職員が大多数を占めており、「活用する」という課題はクリアできたと思われます。

- ・生徒の基礎学力の定着及び理解を深める授業手法として何が良いのか
- ・生徒が主役である授業をいかにして、学び合える環境にしていくか

が改めて考えさせられる研修会となりました。